

2023年3月期 第3四半期決算補足資料

株式会社IMAGICA GROUP

証券コード：6879

2023年2月7日



1

全社のれん償却前営業利益は約41億円、前年より9億円増益

2

映像制作サービスは引き続き海外がけん引、前年より11億円増益

3

当期純利益は法人税等が増加したことにより6億円減益

第3四半期（累計）決算ハイライト

- 大幅な増収増益を確保。当期純利益は法人税等が増加したことにより減益

(単位：百万円)

売上高

68,220

前年増減額
+12,581 (+22.6%)

のれん償却前
営業利益

4,111

前年増減額
+901 (+28.1%)

営業利益/損失

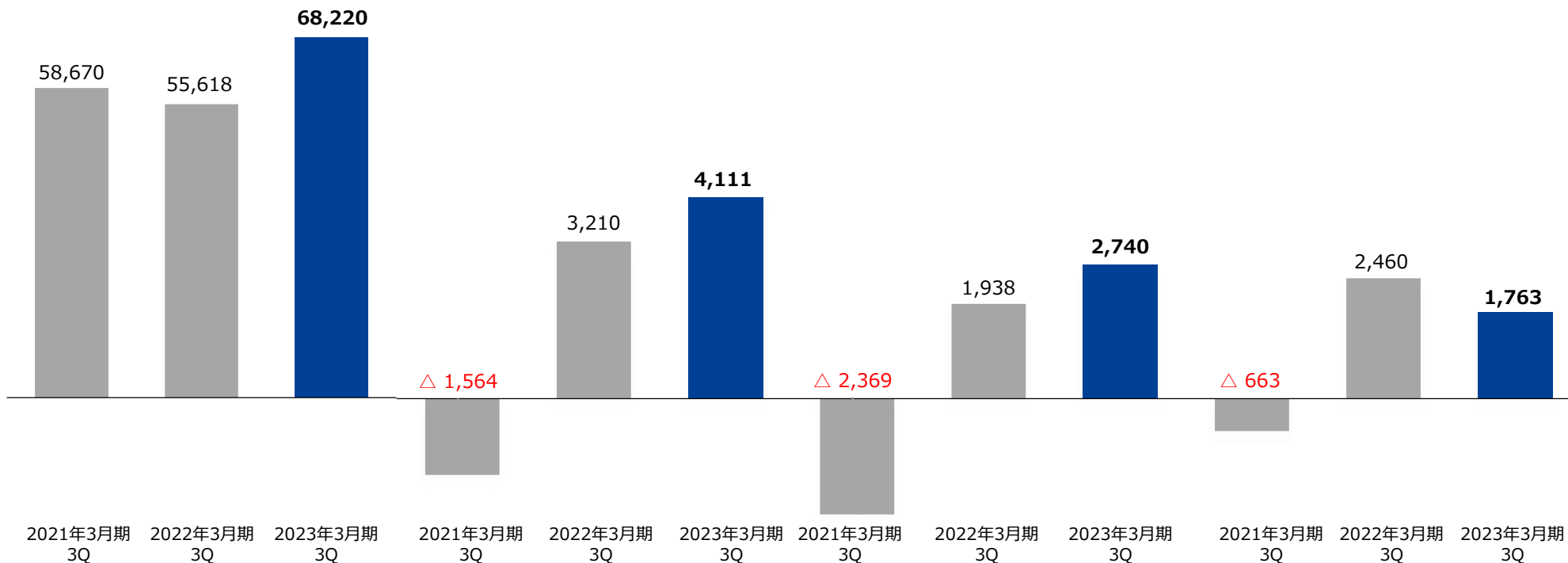
2,740

前年増減額
+802 (+41.4%)

親会社株主に帰属
する当期純利益

1,763

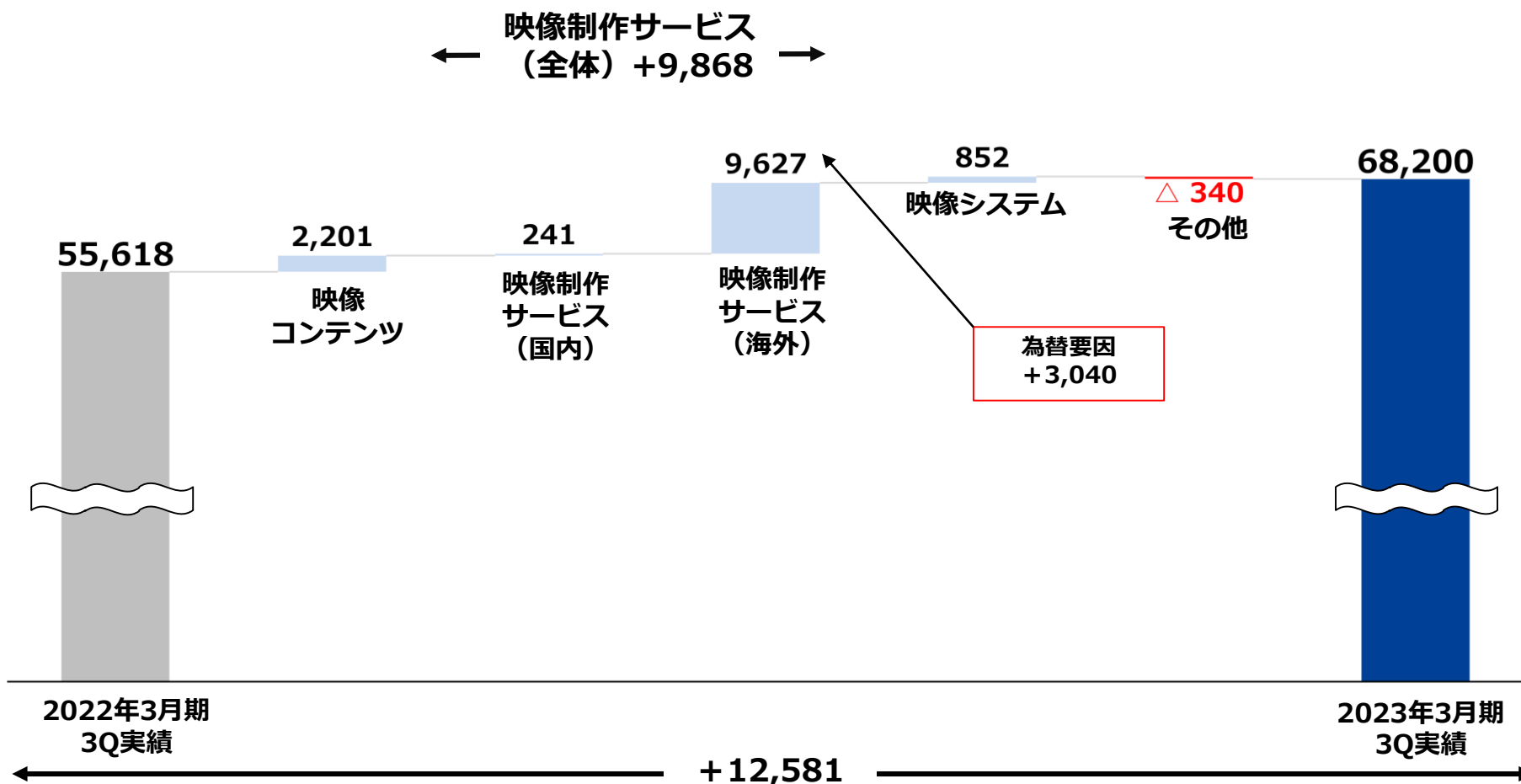
前年増減額
△697 (△28.3%)



売上高の増減分析（前年比）

- 全セグメントで増収、特に映像制作サービス（海外）は96億円の増収

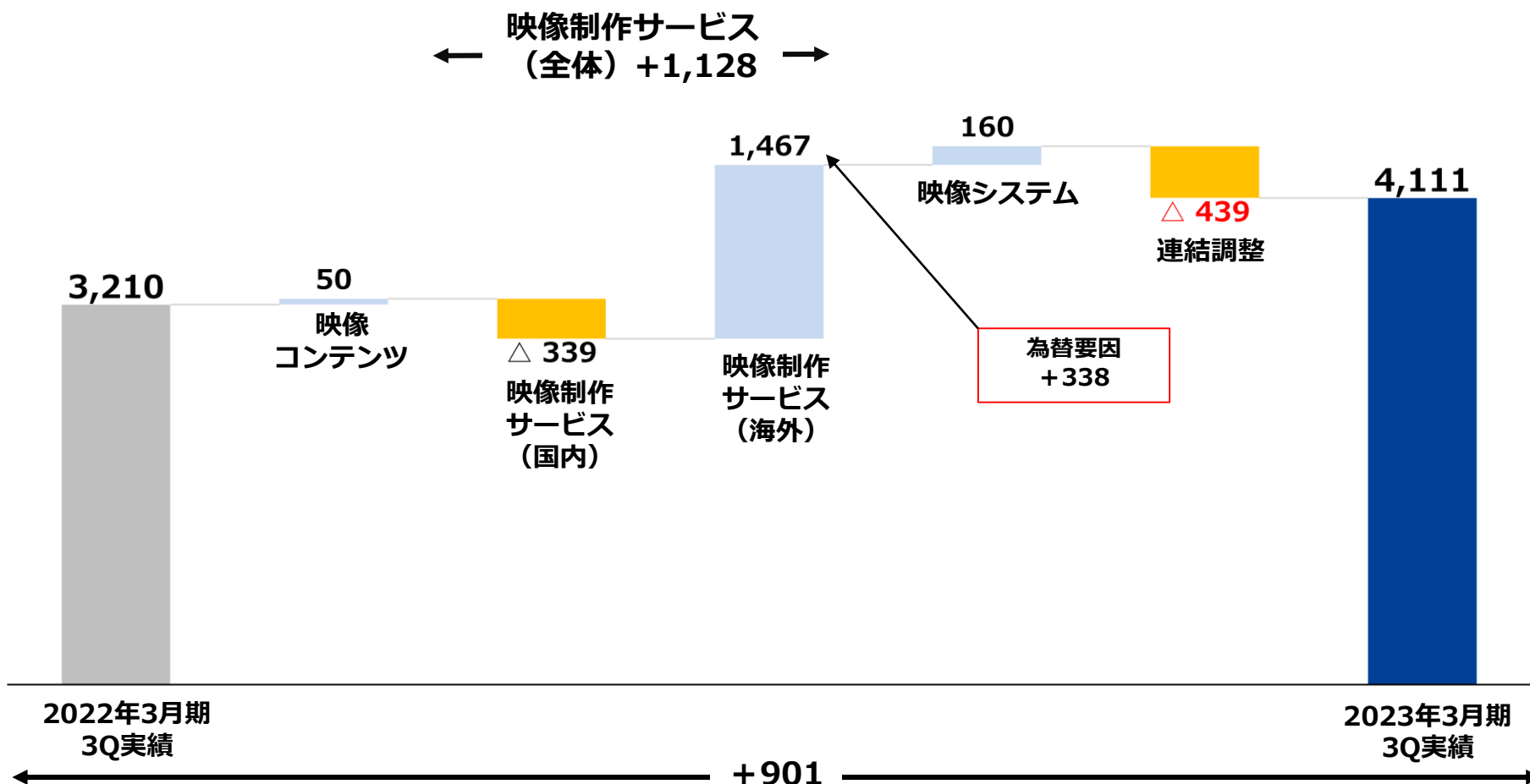
（単位：百万円）



のれん償却前営業利益の増減分析（前年比）

- 映像制作サービス11億、映像システム1.6億、連結で9億円の増益

(単位：百万円)

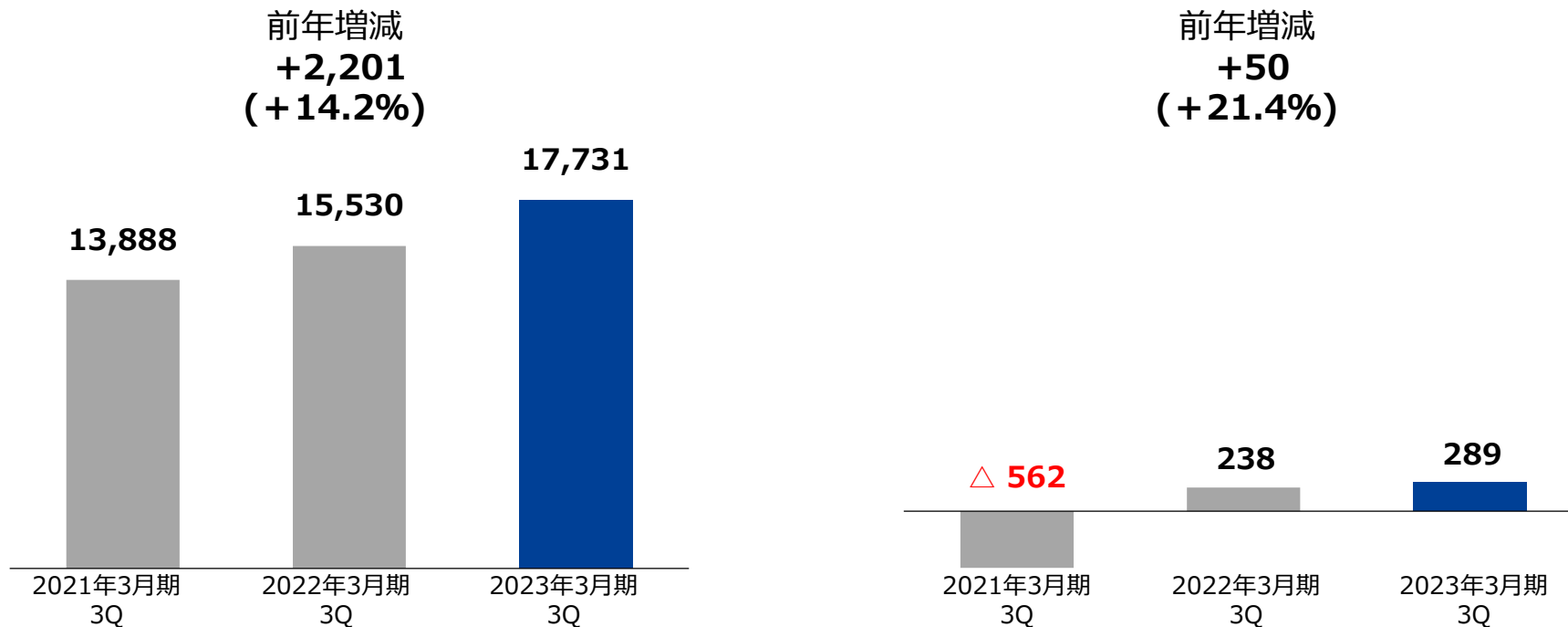


第3四半期に動画配信事業者*向け大型案件の計上等により増収増益

売上高

のれん償却前営業利益

(単位：百万円)



- ✓ アニメ制作においては、引き続き粗利益率が改善
- ✓ ライブエンタテインメント事業においては、受注が好調に推移
- ✓ CM制作については、第3四半期以降の案件受注が想定より苦戦

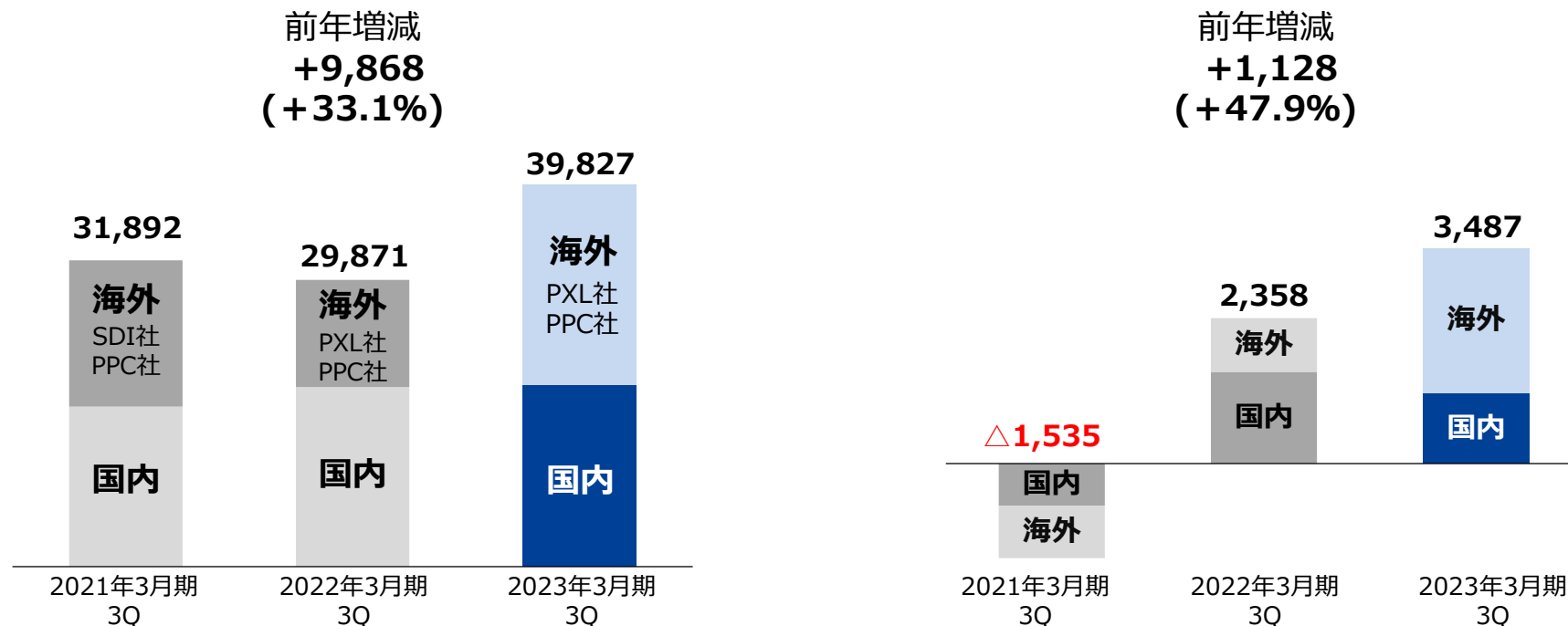
映像制作サービス事業（第3四半期累計）

・ グローバルE2Eサービス*の好調継続により大幅な増収増益

売上高

のれん償却前営業利益

(単位：百万円)



- ✓ 海外のE2Eサービスにおいては、引き続き動画配信事業者*向けのローカライズの需要が好調に推移したことで、売上・利益ともに大幅に伸長
- ✓ 国内のE2Eサービスにおいてはデジタルシネマサービス*やアニメーション作品のポストプロダクションサービス堅調も、拠点移転に伴う固定費増により減益

映像システム事業（第3四半期累計）

- 全体で増収増益、ハイスピードカメラは半導体不足の影響緩和により売上が回復傾向

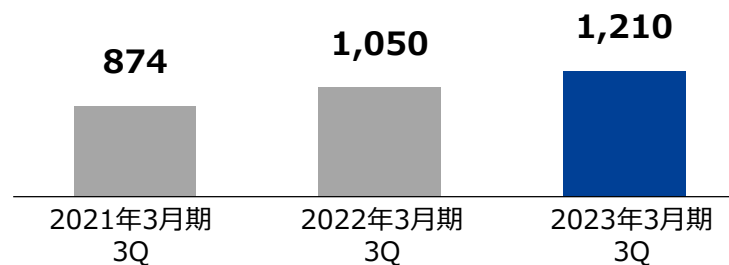
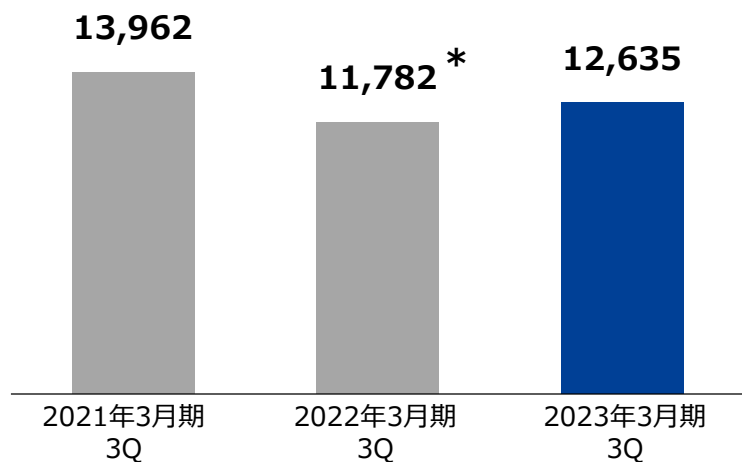
売上高

のれん償却前営業利益

(単位：百万円)

前年増減
+852
(+7.2%)

前年増減
+160
(+15.3%)



- ✓ 光学計測事業は、設備投資回復に伴い売上が増加
- ✓ 映像・画像処理LSIは国内および海外における販売が引き続き好調
- ✓ 放送映像システムは、案件の受注不足により苦戦

*会計基準変更影響：モバイル通信回線売上を純額で計上したことによる影響

2023年3月期 通期業績予想の修正

特別損益計上により当期純利益を修正。4QのCM制作受注が不透明なこと、海外拠点の投資に伴うコスト増や人件費増などの影響を踏まえ、営業利益・経常利益は据え置く

(百万円)	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	5/13開示業績予想	修正後業績予想	前年増減額	前年増減率
売上高	80,184	88,000	88,000	7,816	9.7%
のれん償却前営業利益	5,131	5,200	5,200	69	1.3%
(利益率)	(6.4%)	(5.9%)	(5.9%)		
営業利益	3,417	3,600	3,600	183	5.3%
(利益率)	(4.3%)	(4.1%)	(4.1%)		
経常利益	3,934	3,300	3,300	△634	△16.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,729	2,100	3,800	1,071	39.2%
1株当たり当期純利益 (円)	61.49	47.30	85.59	24.1	39.1%
一株当たり配当金 (円)	15.0	15.0	15.0	0	0.0%

※詳細は2月7日開示の「特別損益の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」を参照

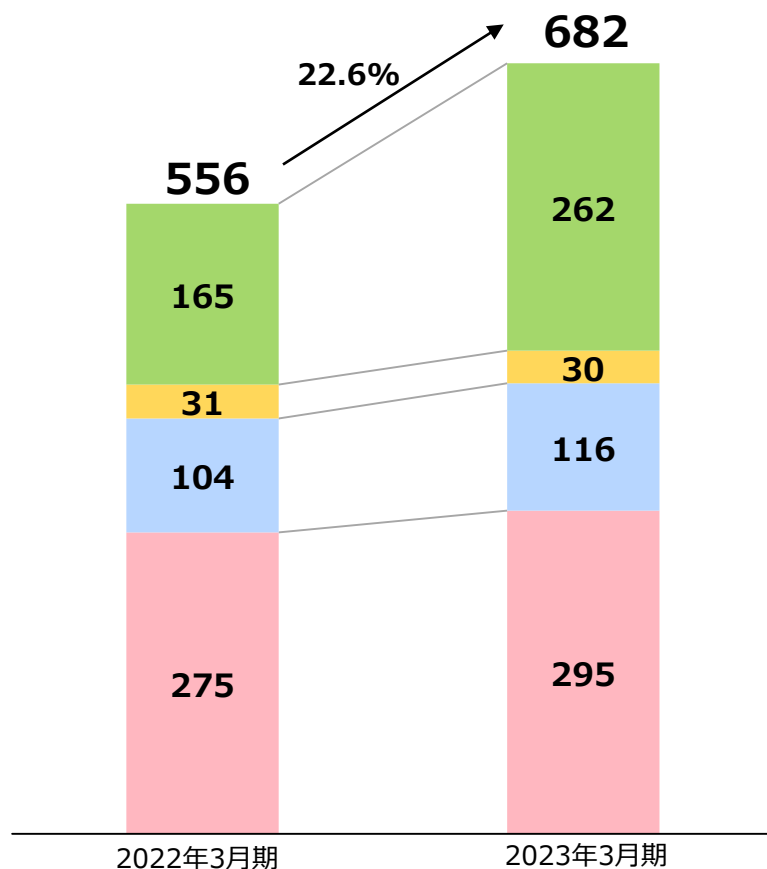
※1株当たり配当金予想15円については、特殊要因を除外した上での配当性向を踏まえて総合的に勘案した結果、変更はありません。

Appendix.

(参考) 中期経営計画「G-EST2025」の業績進捗

- グローバルE2E事業が大幅に増収、その他事業も計画通りに進捗

第3四半期累計 売上高



■ グローバルE2E事業

- ✓ 海外の動画配信事業者*向けサービスが引き続き好調で、前年比58.7%と大幅増収

■ ライブエンタテインメント事業

- ✓ 前年にイベント特需があったことで減収も、ビジネスモデル構築に向けた新たな取り組みを推進

■ 映像システム

- ✓ ハイスピードカメラの半導体不足影響緩和で売上が回復傾向。全体としては順調に進捗し増収

■ 変革

- ✓ 劇場作品・ドラマ作品が好調に推移、またアニメーション作品の粗利益率も改善傾向で増収増益

(参考) 基本戦略に属する主要子会社と事業内容

グローバルE2E事業

IMAGICA
ENTERTAINMENT >> MEDIA



国内外でのE2Eサービス



ライブエンタテインメント事業

P.Y.C.S.



音楽ライブ演出やミュージックビデオ制作
オンラインライブ演出やメタバース事業等



映像システム事業

Photron

イマジカ・ライヴを除く映像システム事業



変革事業

ROBOT



P.Y.C.S.

- ・劇場映画・ドラマ・アニメーション制作
- ・広告制作
- ・TV番組・TVCM向けポストプロサービス
- ・ゲーム制作・人材サービス



連結損益計算書

(単位：百万円)	2022年3月期3Q	2023年3月期3Q		
	実績	実績	前年増減額	前年増減比
売上高	55,618	68,200	12,581	22.6%
売上総利益	16,390	19,197	2,806	17.1%
(売上総利益率)	29.5%	28.1%		
営業利益	1,938	2,740	802	41.4%
(営業利益率)	3.5%	4.0%		
経常利益	2,448	2,391	△ 57	△2.3%
(経常利益率)	4.4%	3.5%		
特別利益	858	585	△ 272	△31.8%
特別損失	559	255	△ 304	△54.5%
税金等調整前当期純利益	2,747	2,722	△ 25	△0.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,460	1,763	△ 697	△28.3%
(参考)のれん等償却前営業利益	3,210	4,111	901	28.1%

※のれん等償却前営業利益 = 営業利益 + のれん償却 + 商標権他無形固定資産償却

連結貸借対照表

(単位：百万円)		2022年3月期末	2023年3月期3Q末	前期比	主な増減要因	
資産の部	流動資産	41,066	44,165	3,098	棚卸資産 + 4,135	
	うち現預金	6,420	5,098	△ 1,321		
	固定資産	32,317	40,614	8,297	リース資産 + 5,109 (米国リース会計基準の適用による増加)	
	うちのれん	11,482	13,253	1,770		
資産合計		73,384	84,780	11,395		
負債・純資産の部	流動負債	32,278	35,745	3,466	支払手形及び買掛金△2,405 契約負債 + 4,165	
	うち短期借入金	4,170	5,706	1,536		
	固定負債	7,079	11,175	4,095	リース債務 + 4,601 (米国リース会計基準の適用による増加)	
	うち長期借入金	4,019	3,441	△ 577		
	負債合計		39,358	46,920	7,561	
	株主資本		29,963	31,048	1,085	
	その他包括利益累計額		1,185	3,915	2,730	為替換算調整勘定 + 2,781
	非支配株主持分		2,876	2,895	19	
純資産合計		34,025	37,859	3,834		
負債純資産合計		73,384	84,780	11,395		
ネット資金		△ 1,769	△ 4,049	△ 2,279	(現預金 - 長短期借入金)	

セグメント別総括

(単位：百万円)		2022年3月期3Q	2023年3月期3Q		
		実績	実績	前年比増減	前年比増減率
映像コンテンツ事業	売上高	15,530	17,731	2,201	14.2%
	営業利益 (営業利益率)	234 1.5%	285 1.6%	50	21.7%
	のれん等償却前営業利益	238	289	50	21.4%
映像制作サービス事業	売上高	29,776	39,645	9,868	33.1%
	営業利益 (営業利益率)	1,116 3.8%	2,147 5.4%	1,030	92.3%
	のれん等償却前営業利益	2,358	3,487	1,128	47.9%
映像システム事業	売上高	11,782	12,635	852	7.2%
	営業利益 (営業利益率)	1,023 8.7%	1,184 9.4%	160	15.7%
	のれん等償却前営業利益	1,050	1,210	160	15.3%
その他	売上高	△ 1,471	△ 1,811	△ 340	—
	営業損失	△ 436	△ 875	△ 439	—
連結合計	売上高	55,618	68,200	12,581	22.6%
	営業利益	1,938	2,740	802	41.4%
	のれん等償却前営業利益	3,210	4,111	901	28.1%

2022年10月～12月 主なグループTOPICS

グループ横断のSDGs活動プロジェクト
「CREDUCTION® ACADEMY 子供体験教室」を
スタート

P.I.C.S.企画・原作“経済的に正しい”
ロボットヒーロープロジェクト
「ブルバスター」TVアニメ化決定！



IMAGICA GROUP グループ横断 SDGs 活動プロジェクト
CREDUCTION ACADEMY 子供体験教室

参加無料

IMAGICA GROUP
USA Photron

未来の 2100年の天気予報
気象キャスターになろう!!

現役気象キャスターがSDGsのワークショップを開催。
最新技術を使って未来の天気予報を体験しよう!

雨つぶの不思議
実験や観察

同時開催
スローモーションの世界を体験

世界で使われるプロフェッショナル器材で
「一瞬の世界」を見よう!

講師
国本末華みづはな 気象予報士・気象士
小林正寿たけし 気象予報士

SDGsお天気
カレンダー工作

今からつながる
未来の地球
温暖化を知る考える



©P.I.C.S.・KADOKAWA刊/波止工業動画制作部

IMAGICA GROUPは、子供たちが“映像”を通じて好奇心と探求心を持って主体的に学び、「自ら考え、創造する力」を育むための体験教室を地域社会と一緒に提供する本プロジェクトを企画いたしました。

本プロジェクトの第1弾として、東京・竹芝エリアで開催された「ちょっと先のおもしろい未来2022」で体験型教育ワークショップ「2100年の天気予報 気象キャスターになろう!!」を開催しました。

[活動報告はこちら](#)

映像監督・中尾浩之と漫画家・窪之内英策のタッグに高島雄哉、出雲重機と豪華スタッフが結集し生まれた“経済的に正しい”ロボットヒーロープロジェクト「ブルバスター」がこの度、映画「バケモノの子」助監督の青木弘安を監督に迎え、TVアニメ化することが決定しました。放送は2023年を予定しています。

[詳細PDFはこちら](#)

2022年10月～12月 主なグループTOPICS

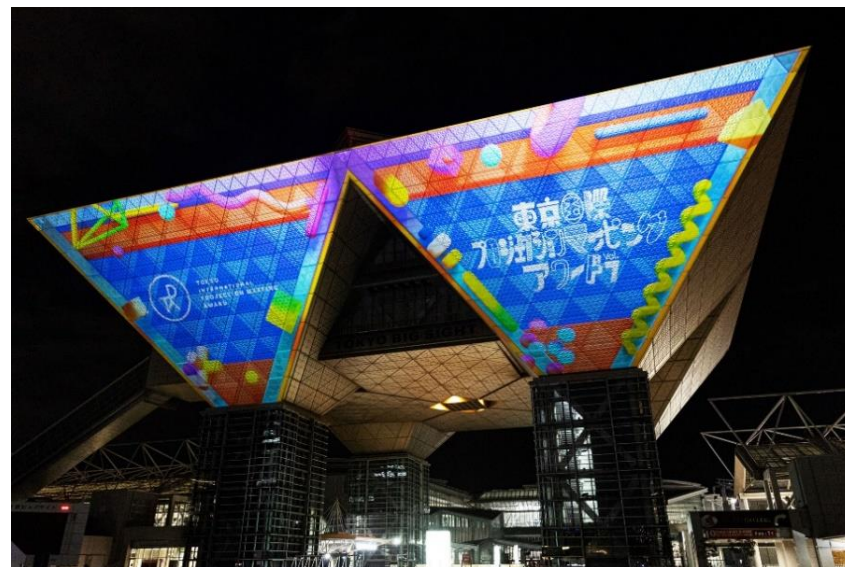
ROBOT企画制作の「今際の国のアリス」シーズン2
Netflixにて全世界独占配信スタート



©麻生羽呂・小学館/ROBOT

当社グループで、映画・TVCMなどを中心とした映像エンタテインメントやイベントの企画プロデュースを手掛ける株式会社ロボット企画制作の「今際の国のアリス」シーズン2が2022年12月22日よりNetflixにて全世界独占配信をスタートしました。

若手クリエイターによる空間映像コンテスト
「東京国際プロジェクションマッピングアワード Vol.7」
を開催



© 東京国際プロジェクションマッピングアワード実行委員会

当社グループ会社の株式会社ピクス及び株式会社IMAGICA EEXが運営する東京国際プロジェクションマッピングアワード実行委員会は、「東京国際プロジェクションマッピングアワード Vol.7」最終審査・上映会を11月19日（土）に東京ビッグサイト会議棟前広場にて開催いたしました。

3年ぶりの有観客+オンライン配信での実施となり、現地には7,497人が来場、オンラインではのべ303,936人が視聴しました。

[詳細PDFはこちら](#)

IMAGICA GROUP総合力展『IMAGICA GROUP EXPO』を開催しました



2022年11月25日、26日に東京ポートシティ竹芝・ポートホールにて、IMAGICA GROUP総合力展『IMAGICA GROUP EXPO』を完全招待制（25日はお客様向けのビジネスデイ、26日は従業員およびご家族向けのファミリーデイ）として開催しました。グループ各社を紹介する「個社別展示」、高精細映像・最先端技術などを活用し、グループの連携により創出した新しい映像体験を紹介する、メタバース、スポーツテック、宇宙エンタテインメントなど10個の「テーマ展示ならびに体験ブース」、「ステージセッション（2日間で合計5本）」をご覧いただきました。

10個のテーマ展示ならびに体験ブースに関しては、イベントレポートをご覧ください。

<https://www.imagicagroup.co.jp/groupexpo2022/report.html>

*グローバルE2Eサービス

End to End。映画・ドラマ・アニメーション等の映像コンテンツを制作するポストプロダクションから、それらを劇場、テレビ、インターネットを介した動画配信などあらゆるメディアで流通させるために必要なローカライズ(吹替、字幕制作)、ディストリビューション(流通)のためのメディアサービスまでをワンストップで提供するサービスの総称を指します。

*デジタルシネマサービス

劇場にてデジタル上映を行うためのDCP(Digital Cinema Package)作成やDCPデリバリー、KDM(Key Delivery Messageの略で、DCPの暗号を解除するための鍵)配信等のサービスを指します。

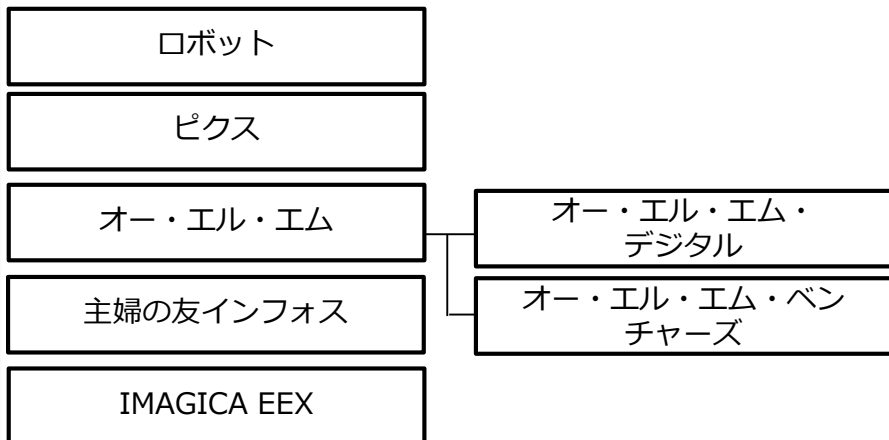
*動画配信事業者

インターネットを介したプラットフォームにて動画配信を行う事業者を指します。

事業セグメント別 連結子会社一覧（2023年3月期）

映像コンテンツ事業

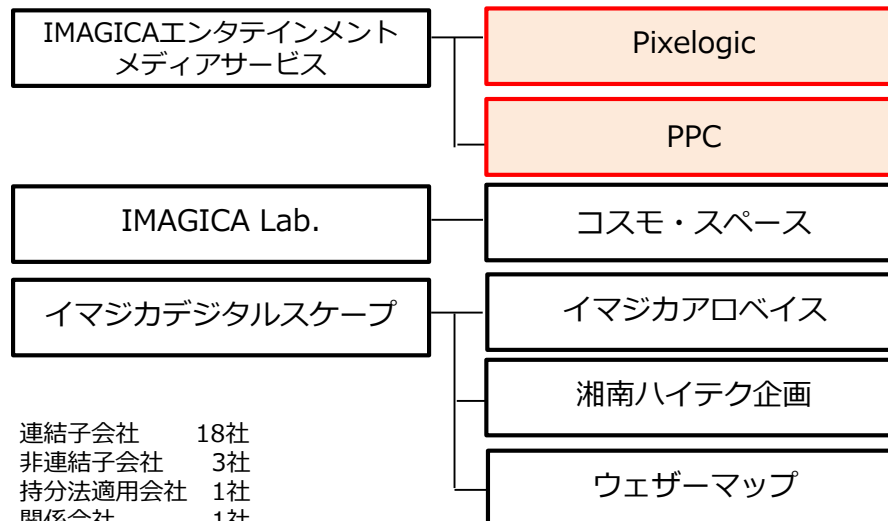
映画、アニメ、CM、TVドラマ等の企画制作、出版事業、音楽ライブやイベント等の映像を軸にした空間の総合プロデュース



連結子会社 9社
非連結子会社 3社

映像制作サービス事業

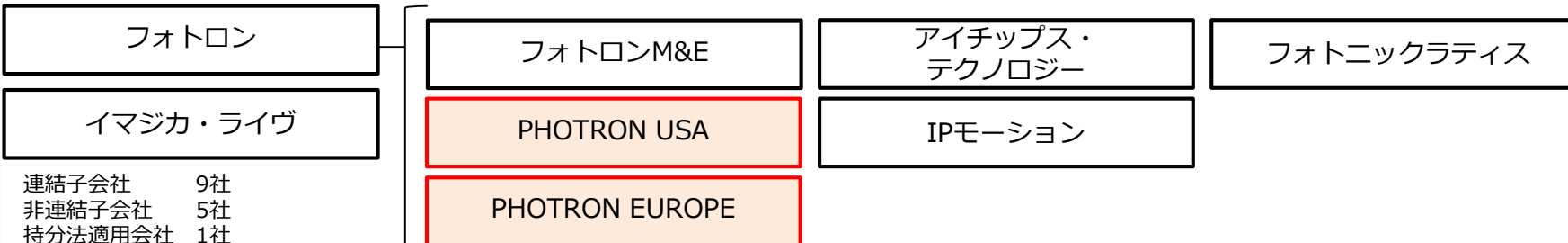
映像・音声編集、CG制作等の映像加工、字幕・吹替、配信・流通サービス、撮影、中継、ゲーム制作、人材サービス



連結子会社 18社
非連結子会社 3社
持分法適用会社 1社
関係会社 1社

映像システム事業

放送映像システムの設計～導入、ネットワーク回線を活用した映像伝送、映像編集クラウドシステム構築など映像システムソリューション全般
独自技術のハイスピードビデオカメラの開発製造事業、医療用画像システム、光学計測、画像関連LSIの開発・販売等



連結子会社 9社
非連結子会社 5社
持分法適用会社 1社

お問い合わせ先

株式会社IMAGICA GROUP グループ経営管理部

〒105-0022 東京都 港区 海岸 1-14-2

Email : ir@imagicagroup.co.jp

URL : <https://www.imagicagroup.co.jp/>

Twitter : <https://twitter.com/IMAGICAGROUP>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。